

未来はきれいな下水道

宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校

一年

田畑 沙妃

普段、じゃ口をひねったらいってでも出でく
る水を自分がたくさん量とよごしていると
いうことを意識することには難しい。

私は小学校時代、そのよくなよごれた水を
処理してきれいにする下水道のしくみを学び
見学したことがある。よごれている水を見せ
てもらったときには、とてもおそろしい。自

分の生活の中でたくさん水の使いここま
でよごして、るとはじめて知ることや、できた
体験であつた。

水がよごれてしまふのは防ぐことができな
い。けれど家庭で工夫をして、水がよごれる
量を減らすことはできるのではなにか。そこ
で私は自分の母と祖母に聞いてみることにし
た。

母が工夫していることは、油などを水には
絶対に流さないというところだ。あたりま

えのようにおもえるかも知れないが、油をき
れいぼ水にするのはほとほとたくさんの水が
必要だと''う。そのため母は油を一度7うイ
パニの上で固め、ほかして捨てるようにして
いるそうだ。私はそのことを聞き、料理をす
るときに、すしりのことをするだけだとくさ
んの水を守ることができるとは、いいかと思
った。
次に祖母が工夫していることは、お米をとぎ汁を
''だ後のとぎ汁やお風呂の水などを再利用
するといふことだ。お米のとぎ汁は、
そうじをするときに使える。お風呂で入った
後の水はせんたく機の水の代用としてじゅう
ぶん活用できる。この方法だと家族だけ
どもたくさんの水を無だによごすことが減る
のぞはな''かと思った。
日本はびり国はこのように、たくさんの水
を無だによごし多く使っている。そのか工夫
をそれで行わなければ未来が生きこいけ
ないと思ふ。

しかし、世界の多くの国々では貧しく永く
り手に入らない人々や、またない水を飲んで
暮らしている人々もいる。そこで日本は、水
ときれいにする技術などをその国の人々に
教え、井戸をつくり、きれいな水がでるよう
にしこいる。下水道は住きこいくなかどと
も必要であり、その技術は分けあうことので
きる大切なものだ。けれどどんなに日本から
助けとして技術などを教えていって来ても
すべてこの国が助けられることは難しい。他の

国が協力したとしてもたたくさんのぼ金を行な
つても今、助けられこいるのはほんの一部で
ある。
そのため、おいしい水を私たちが飲み、水
を大量によごしこいるときには、世界のどこか
の人々は必ず、水がなくて苦しんでいる。よごれ
ている水をきれいにする技術もない。そのこ
とを意識すべきだと思う。意識とすることで
いつもきれいな水を飲めるよこいなかや、技術
に對する気持ちも変わるのではないだらうか。

意識をしなければならぬことは、世界の
ことにはかぎりず、私の住んでいる宮崎市に
もあると思う。宮崎市は、大淀川が流れてい
る。たくさんの生物が住んでいる。自由研究
などで、よく観察をする場所である。けれど
いつも親から、昔はもつと生物がいたんだと
聞く。調べてみると、水のごれと関係があ
ることがかかった。私たち人間の乱れでよご
れた水は、地域の川や海にまでえいきょうを
およぼしている。そのため、自分のすみかが
人間によって失われ、命を生まれてすぐ落
としてしまっている生物はたくさんいるそう
だ。
このように、水はすべての生きているもの
に必要なものだ。水を使って生きているから
使用した後のよごれた水が出てしまふ。その
よごれたたくさんの水を下水道で処理してい
るときに、世界で困っている人や、苦しんで
いる人がいる。そして、水の中で命をおとし
てしまった魚や生き物もたくさんいる。これ

からの未来を生きていくためにも、下水道に
送られる水のよごれを減らしこいかなければ
ならない。そのために、自分ができることを
積極的に探し、工夫して取り組みたいこと
を生きている人間、すべての人に意識して
心がけていく社会をつくりたいと思う。

「意識をしてよごれた水を減らしこいこ
と」これが、私の考えた今後の課題だ。